I.P.M.News

東京:03-3354-4841　仙台:022-796-8724
名古屋:052-218-9251　大阪:06-6365-5692
広島:082-568-7444　福岡:092-741-3138
熊本:096-288-2555　札幌:011-206-0737
六甲山研修センター:078-891-1041

No. 60　2019年　秋号　　2019年11月1日発行

発行:公益財団法人国際労務管理財団(I.P.M.)
東京本部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-26-6 新宿加藤ビルディング7F
http://www.ipm.or.jp/　TEL:03-3354-4841(代)　FAX:03-3354-4847

記事案内

1	バングラデシュ人材育成交流セミナー
2	泉佐野市長　六甲山研修センターご来訪
3	JITCO作文コンクールの授賞式報告
4	国際交流事業の紹介
	担当職員から
	編集後記

バングラデシュ人材育成交流セミナー

本年9月24日、バングラデシュ人材育成交流セミナーが開催されました。駐日バングラデシュ人民共和国大使館等との共催で、東京都、日本貿易振興機構（JETRO）ほか13機関の後援を得て行われました。

今回のセミナーでは、大使館を始め、送り出し機関などバングラデシュの関係者が国を挙げて日本への人材送り出しに積極的であることが示され、また国情も知ることができ、同国への理解が深まり、大変盛況に終了いたしました。

■概要：

◇来賓挨拶

駐日バングラデシュ人民共和国特命全権大使
ラバブ・ファティマ閣下

人材余剰のバングラデシュと深刻な人材不足である日本の協力体制が望まれている中、日本政府とバングラデシュ政府の間で「特定技能にかかる二か国間の協力覚書」が８月に締結されたこと、また、バングラデシュでは国民の海外雇用を管理するために制度を強化していることについて、述べられました。

大使 ラバブ・ファティマ閣下

◇講演「バングラデシュの技能実習生送り出しの現況」

BOESL・バングラデシュ海外雇用サービス公社部長
アリフル・ハーク氏

BOESLの説明やバングラデシュの基本情報、また、職業分野ごとの現況についてのお話がありました。

BOESL部長 アリフル・ハーク氏

◇講演「建設分野の最新の状況と建設キャリアアップシステム」

一般財団法人建設業振興基金
海外人材育成支援担当部長　土井直樹氏

建設キャリアアップシステムが必要である理由、建設キャリアアップシステムの概要と利用手順等についてお話がありました。参加者のアンケートから、大変興味深かったという感想が多くみられました。

建設業振興基金部長 土井氏

◇講演「バングラデシュ経済と日系企業の動向」

日本貿易振興機構・JETRO海外調査部
アジア大洋州課課長代理　西澤知史氏

バングラデシュのGDP成長率や輸出入状況、また、バングラデシュにおける日本企業の事業展開等について大変わかりやすくご講演をいただきました。

JETRO課長代理 西澤氏

泉佐野市長　六甲山研修センターご来訪

泉佐野市千代松大耕市長がＩＰＭ六甲山研修センターを訪問されました。

７月２２日、泉佐野市の千代松大耕市長，生活産業部まちの活性化担当理事の西納久仁明様，まちの活性課課長の島田純一様の３名様が、当財団六甲山研修センターを視察されました。

同市は西日本の空の玄関口として知られていますが、今後さらに外国人労働者の増加が見込まれることから、当財団の技能実習生支援の経験と知恵をこれからの外国人支援の参考にしたいと訪問されました。

はじめに、当財団大阪事務所長の橋本より技能実習制度の概要と、我が国における外国人雇用の現状について説明を行いました。技能実習制度は我が国の産業の技能や知識を開発途上地域へ移転することで、経済発展を担う「人づくり」に協力することを目的とした国際貢献事業ですが、残念ながら日本国内の深刻な労働者不足を背景に技能実習生を不法に斡旋・就労させている制度に反する団体も少なくありません。

泉佐野市でもこうした状況を改善すべく心を砕かれているとのことで、監理団体と地方自治体が果たすべき役割は何なのかを話し合いました。

▲特産の泉州タオルのお土産を持って記念撮影

▲外国人技能実習制度概要と外国人雇用の現状について
当財団大阪事務所長の橋本より説明

次に、日本語の授業を見学していただきました。この日は配属を２週間後に控えたベトナム人技能実習生４名が会話の授業を受講中でした。少人数制できめ細かな教育がなされる当センターのカリキュラムについて大変関心を持たれておりました。千代松市長も「我々ももっと日本語を勉強しなくては」とおっしゃられ、緊張していた技能実習生らからも思わず笑みがこぼれる和やかな場面もありました。

また、昼食は食堂にて技能実習生らとともに召し上がっていただきました。当センターでは日本語教育を実施するだけでなく、一緒に働く仲間たちとの協調性やチームワークを高めるため、調理や清掃などの家事も皆んなで協同して取り組んでいます。

食後には、技能実習生らとの意見交流の場を設けさせていただきました。初めての外国にやってきた彼らに対して千代松市長からは、これから挑戦してみたいことは何か、将来の夢は何であるか等の質問をされ、技能実習生たちもまだ拙い日本語ではあるものの一生懸命にそれらの質問に答えていました。

泉佐野市はこれまで多くの外国人を受入れてきたゲートウェイとして知られていますが、今後は国際交流のハブとなる都市としてさらなる発展をされるよう、当財団としても応援させていただきたいと思います。

▲研修センター食堂にて技能実習生たちと一緒にランチ会

▲技能実習生たちとの意見交換会の様子

JITCO 作文コンクールの授賞式報告

10月4日経団連会館にて、JITCO作文コンクール授賞式（第27回JITCO交流大会）が行われました。全国応募者2,556名もの中から以下のI.P.M.技能実習生2名が受賞しました。授賞式に参加したI.P.M.職員が授賞式をご報告します。

【優秀賞】NGUYEN THI LAN THUさん（株式会社エヌチキン）

【優良賞】LE THI HIENさん（東洋ワーク株式会社下関営業所）

株式会社　エヌチキン
実習生代理（左）と当財団理事（右）

東洋ワーク株式会社下関営業所
LE THI HIENさん（左）とマネージャー我妻様（右）

今年度の作文コンクールには中国、ベトナム、インドネシア、タイ、ミャンマー、モンゴル、フィリピン、カンボジア、キルギスの技能実習生及び研修生が応募しており、応募総数2,556編の内ベトナムが1,484編と、半数以上を占めました。

今年度の入賞者（最優秀賞4名、優秀賞4名、優良賞20名）の受賞式が行われました。最優秀者4名の作品も聞かせて頂きました。内容も面白く、とても素晴らしい作品でした。

実習生の勉強する時間は留学生より少ないはずです。ですが、自分の休憩時間も惜しんで、日本語の勉強をしているという実習生が少なくないです。限られた時間でこのような素晴らしい作品を書けるのは本当に驚かされます。留学生でした私も尊敬致します。

〇実習生の皆さんへ、I.P.M.職員からの応援メッセージ

私も外国人なので、異国で異国の言語を勉強するのはどんなに大変なのか良くわかります。母国語ではない言語を勉強するのは大変ですね。でも、自分が好きであれば、どんなに難しくても、大変でも頑張れるでしょう。私は日本語が好きですので、難しくても、諦めずに頑張っています。どんなことでも好きになったら、大変だと思わないでしょう。

ですから、皆さんも日本語を好きになってください。勉強が楽しくなると思いますよ。交流大会で拝見した皆さんの明るくて、嬉しい顔がとても美しかったです。努力の結果ですね。

私はミャンマー人ですので、今年度の交流会で母国の実習生たちが受賞できていないのは残念に思います。それでも外国人である皆さんがこんな素晴らしい賞を受賞したことを本当に嬉しく感じます。何よりも尊敬したいのは少ない時間で、能力試験のN1に合格するように頑張ったことです。

皆さん本当におめでとうございました。私は来年度の交流会で母国の実習生たちが受賞できるよう最大限頑張ります。皆さんも頑張ってください。よろしくお願いします。

I.P.M.技能実習生、実習実施機関の皆さま、たくさんのご応募・ご協力ありがとうございました。

来年度もたくさんのご応募をお待ちしております。

国際交流事業の紹介

ベトナム・ハティン省プロジェクト

在ベトナム日本国大使館とともに人材育成交流フォーラムなどの開催を通じて技能実習生等の送出しの適正化を進めてきたベトナムにおいて、ハティン省人民委員会と連携協定を締結するための協議が10月17日に行われました。ブローカーを介さずに経済的負担が少なく優秀な人材を日本へ送るための本格的な取り組みが開始されることになりました。会議の様子はHTTVテレビやBAOMOIニュースで報道されました。

モンゴル送出し機関訪問

8月1日～8月2日、モンゴルの送出機関「MYANGAN SAKURA」へ訪問しました。モンゴルの中心部から南に数キロ行くと年間数百万の学費を払って子どもを学校に通わせられるほどの富裕層、北に数キロ行くとゲル地区といわれる月収1～1.5万円の貧困層が住んでおり、この狭い範囲でも格差は大きいそうです。

今回は愛媛県西予市直営の介護施設に技能実習生の受入れ支援をI.P.M.にて協力させて頂くこととなりました。技能実習生の面接に集まった候補者は各人が終始穏やかな口調で、時折、素朴な笑顔を見せながら、日本への強い想いを語ってくれました。こうした姿にもモンゴル人特有の温厚でありながらも力強く誇り高いイメージが感じることができました。在モンゴル日本大使館でも職員からお話を伺ったところ、現在、約1,000名のモンゴル人技能実習生が日本で技能実習を行っており、主に建設、農業分野で実習に励んでおります。モンゴル人技能実習生の特徴として、言語面・体力面での強みのほか、現場でリーダーシップを発揮することができる人材も多いとのことで、今後ますますの活躍が期待されます。

担当職員から

初めまして、I.P.M.名古屋事務所の伊山と申します。前職では金融関係の仕事をしておりました。現在は名古屋事務所にて技能実習制度の受入れ支援業務に携わっております。

私自身I.P.M.に入団するまで、外国人就労者の方々と接したことがありませんでした。このような仕事は初めてであり、以前は日本にどれだけ外国人就労者の方がいるのかを考えたことがありませんでした。この仕事を始めてから。近所のコンビニや、建設現場でも外国の方々が働いていることに気づき、日本で働く外国人方々の多さを身を以って感じています。

最近、インターネットやニュースで技能実習制度について、悪い側面ばかり報道されています。しかし、それは一部であって、企業と実習生が良好な関係を築いていることも多いということを理解して頂き、技能実習制度が決して悪い制度ではなく、日本の経済に大きな働きをしているということを改めて知って頂きたいと思い業務に励んでいます。

また、技能実習生と接する機会の中で、彼らには異文化で生活をしていることを再度認識して、様々なことに関心をもって欲しいと感じます。

技能実習生として日本に来るのは20代～30代の若者であり、技能実習生として日本で過ごす3年～5年の実習期間は大変貴重な時間でもあります。その貴重な時間の中で何を学ぶかは人それぞれ違いますが、異文化社会で生活していることで得られる経験は、とても貴重なものです。その経験を活かして、今後の生活に繋げられるよう日々の実習に励んでほしいと感じるとともに、私も実習生たちの生活が良いものとなるようサポートをしていければと思っております。（名古屋事務所　伊山仁章）

編集後記-各種セミナーの開催を通じて、企業様と実習生及び就労者だけでなく、多くの方々との国際交流に積極的に取り組んでおります。今後の開催情報にご期待ください。（横）